

## 事業実施報告書

事業名 児相の保護対象外や刑余者など、頼れる親族がなく住まいのない困窮女性を支援し生活再建につなげる事業

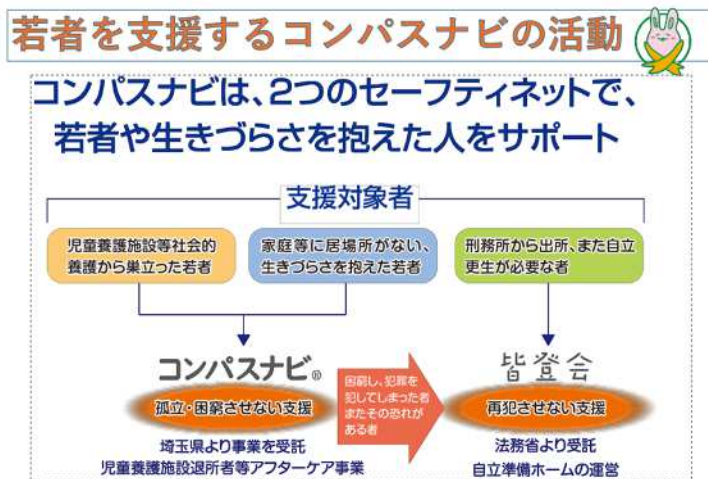
### 1 事業の目的

コロナ禍以来、18才以上で児相の保護対象外や刑余者など、頼れる親族がなく住まいのない困窮女性からの支援相談が増えている。コンパスナビの属する母体会社グループで保有している久喜市にある施設を住まいとして提供し、管理人スタッフの増強と設備環境の更改をして相談者を受け入れやすい体制を充実させ、緊急的な避難から生活再建につなげていくことを目的とする。

### 2 事業内容

#### (1) 事業の概要

コンパスナビの支援の全体像は以下の図のように設定しています。



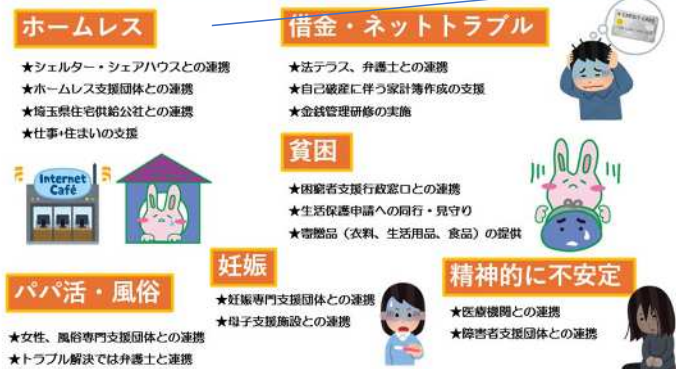
相談者は自力では解決できない複数の課題を抱えてコンパスナビに相談に来ます。債務・妊娠・同居人（家族）のDVからの逃亡・精神疾患などです。

当団体は、夜間祝祭日の緊急避難のための1日～1週間の宿泊場所の提供、就労を目指す者に住所を定めることで生活再建の足場にすることを事業としています。

法テラス、ピッコラーレ、警察、病院など専門性を有する他団体や行政機関と連携して課題の解決をはかっていきます。

これまで頼れる先を見つけられないまま孤立し問題を複雑化させてきた相談者に、滞在中に金銭管理教育など社会的スキルを身に着ける講座の開催や、既に培ってきた近隣の応援者との料理教室などの交流の中で人を信頼する、適切に頼ることの大事さに気づく機会としています。

## 生活・自立支援



本事業では久喜市にある施設・人的体制を整備し緊急避難の住まいとして活用する

コンパスナビの母体グループが保有する久喜市のシェルターがあり、これまで女子刑務所仮出所者・少年院出院者の保護観察処分の者たちの帰住先として運営しています。親族や同居人からのDVがあった者で、コンパスナビへの相談者の緊急避難場所として活用した事例は以前からありました。このシェルターに管理人スタッフの増強と設備環境の更改をし、相談者を受け入れやすい体制を充実させ、緊急避難から生活再建につながるしくみを整えていくことを本事業にて行います。

## (2) 事業の流れ

- ・ 事業開始後、時系列で取り組んだ内容を記入してください。
- ・ 催し等の日時・会場・回数・対象・参加者数などを具体的に記入してください。
- ・ 事業の様子が分かる写真（とその説明）を数枚貼り付けてください。

●申請時にはヨガマット購入を予定していましたが食材購入に振り替えました。

2025年6月から、入所してくる者の背景、生い立ちは特に過酷で、何らかの精神疾患や発達障害のために人と信頼関係を結ぶことが困難な者、すさんだ心持の者が入所する状況が続きました。隠れて飲酒したり、就労が続かないので生活保護に繋げるがパチンコで有り金使い果たす者、統合失調症の症状が共同生活で増悪して暴言罵声が昼夜問わず出てくる者、性的逸脱のある者などが断続的に入所してきました。

●そこで信頼関係を結ぶには食事を一緒に作る頻度を上げることが効果的であると考え、毎週木曜日に食事会を必ず行うようにしました。アルバイト管理者の充実を図り、職員不在時にも毎日の声掛けをすることができるようにしました。

ふりかえって効果があったと実感しています。



昨年の助成でエアコンをつけることができたのも大きいです。洗濯、洗顔、作業台、交流場所、台所、冷蔵庫、電子レンジのある場所に設置したエアコンはフル活用です。10月いっぱいまで暑さが続きましたので、居心地の良い場所になっています。

食事は、寄付でいただく野菜も活用します。また米の高騰がありましたが、ありがたいことに企業様から発芽玄米を寄贈いただき米だけは苦労がありませんでした。

以下、普段の様子です。



7段飾りのお雛様を地域の支援者さんと一緒にセッティングしています。カレーは大鍋にいっぱい作っておくようにしています、この日は白菜をサラダにしました。白菜や春菊を生で食べる経験をして驚いていました。



迷惑施設と言われることを防ぐために地域交流を月1回行うようにしてきました。味噌づくりは3年目、とても喜ばれるイベントです。半年後に味噌開き、半量は地域食堂に寄贈しました。



トルコ風サバサンドに挑戦した日。形の崩れたトマトをたびたび大量に寄付いただくので冷凍しておいて具だくさんのミネストローネをよく作ります。キュウリや大根はよく酢漬けにします。



支援者も入所者も息の合った声掛けで食事を作っている様子です。



顔彩をつかって思い思いの絵手紙を描くときもあります。毎月1回「笑い文字講座」をやっています。刑余者のやんちゃ娘も熱心に描きます。



ジャージャー麺 お肉を安く買える店を見つけてしっかり食べてもらっています。  
すこし癖のある発芽玄米を美味しく食べる工夫、中華丼。

野菜を多めの献立を意識しています。これまでの人生、食を楽しむ余裕のなかった人たちが多いのです。健康を損なうホームレスなどハードな暮らし、薬物の影響で歯がない者もいます。

管理者がいるときのみガス・包丁を使わせるようにしています。自傷他害や失火、メンタルに課題がある入所者に備えての対応です。ただし IH と電子レンジで工夫しています。



とうもろこしや規格外れの野菜をいただいたり、それらを活かす献立を考えます。ゆで卵は皆喜びます。コンビニでは3個くらいしか買えないからたくさんおでんが食べたいと言うので作りました。



支援者も入所者も息の合った声掛けで食事を作っている様子、クリームシチュー、食べ終わったらしばし談笑、元気になります。夜勤明けの者も喜んだ優しい献立。この日はこの後に「笑い文字講座」でした。来年は良い歳にしようね、と「予祝」。その横は加須うどん打ちの日、足で踏んでいます。

●このような毎週の食事会からの良い刺激、循環があって5人の入所者のうち、3月現在常勤で働いている者が4人になりました。ねぎらい、ごみ出しができなかった場合の感謝の声かけ、風邪やケガなどの際のサポートなど入所時には考えられなかった変化が自然に生まれています。

●マンスリーイベントチラシです。玄関前に設置、他 自治会や更生保護女性会に配布。



●久喜の自立準備ホーム 久喜市広報誌「くき」2025年10月号に取り上げていただきました。久喜市の再犯防止推進計画に当法人をしっかりと位置付けていただいています。

令和7年 | 久喜市ホームページ



3月時点で、刑余者2名、夫のDVからの高齢の避難者、家族からの避難者の若年女性、失業で住まいを失って困窮している社会的養護出身者 5人が利用しています。貯蓄して自立巣立ちまでを伴走していきます。また、管理人アルバイト職員は若手と年配の女性に担ってもらっています。

臨まぬ妊娠事案に関し性教育、金銭管理教育も必要に応じて職員が行っています。

- ・食事会 月3回 参加者(入所者+見学者または近隣の支援者 8名平均)
- ・月1回の笑い文字講座(6/26、7/24、8/21、9/25、10/23、11/27、1/15、2/26 10名平均)
- ・9/21 味噌開き(豚汁、おにぎり)、12/25 おはぎづくり、2/12 加須うどん打ち 食事会の折には、ストレッチをしました。

### (3) 連携・協力機関

久喜市役所、認定 NPO 法人ピッコラーレ、さいたま保護観察所、法テラスさいたま、認定 NPO 法人さいたまユースサポートネット、久喜地区更生保護女性会、子ども食堂わくわく、障害者 GH ほっとポット、けやき病院、久喜・幸手地区保護司会、コンパスナビの就労協力企業

### 3 成果及び今後の展開

2024 年度に食堂のエアコン設置が実現できたので、広いレクリエーションルームでの講座、食堂そばで小規模で水回りがあった方が都合がいいイベントと、バリエーションが生まれました。古くからのこの地域に住まう方々にとって、今あの建物はいったい何をしているところかといぶかしく思われていたところ、保護犬（2023 年）・保護猫イベント（2024 年）を通して認知されるようになりました。また毎週食事会を継続することができました。結果、いつのまにか広い年代の方々の居場所の一つになっています。家族の介護からのうつからの回復、親族を亡くしたシニアの居場所になっています。他の連携団体や議員の視察も多かったです。畑で採れたものを持参する方や、手芸などの技能を生かして教えてくれる方、心理職・医療職の有資格者の連携も出てきました。て、困難な人たちを支援する人的なサポートを得られるようになりつつあります。

令和 7 年度も助成金をいただき、背負っている困難から生活再建を目指そうとする人たちを、私たちの団体と同じ気持ちで支えてくださる多くの人たちに出会うきっかけとなりました。また管理人アルバイトのいる安心感の効果は大きく、原資の調達が大きな課題ではありますが、近隣の支援者や、元入所者等、柔軟性を持たせながら持続可能な方途をこれからも追及してまいります。